

身近で小さなダイバーシティについて考える

Realization of my family's diversity

隅倉 光博 (すみくら みつひろ)

清水建設(株) 副主任研究員

1. 地盤環境問題への目覚め

私は、建設会社の技術研究所で環境浄化の研究、特に土壤汚染の浄化技術の開発に携わっています。地盤工学に関わるきっかけは、子どものころに経験した自然の多い生活と、大学院進学時に知った故郷の土壤汚染問題でした。

私は熊本県の荒尾市で生まれ育ちました。荒尾市は三池炭鉱や有明海の海苔生産で栄えてきた都市で、山や海が身近にある自然の多い環境です。また、実家が兼業農家で、父親が大工であったこともあり、土や木に触れることが当たり前の生活をしていました。それで、自分の将来についても、大工か農業に関わる仕事に就くのかなと漠然と考えていたことを覚えています。しかしながら、当時は、泥だらけになっている姿を友達に見られる事が嫌で手伝いを避けるなど、自然に触れる楽しさに気づいていませんでした。また、大学入学時には、大工として建築を学ぶために工学部にするか、農家を継ぐために農学部にするか進学先を悩みましたが、正直に言うと、親元を離れて生活するために、地元の大学には設けられていない農学部を選ぶなど、将来についてはまだまだ漠然と考えていました。

大学入学後は、コンクリートとアスファルトに囲まれた都会の生活にがらりと変わり、農学部とはいっても自然環境に触れる機会はほとんどありませんでした。そんな生活を続けている内に「自然の少ない寂しさや、自然の大切さ」に気づき始め、将来は環境問題に関わる仕事に就きたいという気持ちが大きくなり、環境問題について調べました。すると、自分が育った地域や農地でも土壤汚染が問題となっていたことを知り、自分の知識のなさに愕然としました。そこで、大学院へ進学先し、研究テーマとして土壤汚染対策技術に取り組むことを決めたことが、地盤工学の分野に進むきっかけとなりました。



平成 16年 九州大学大学院 生物資源環境
科学府修士課程修了
同年 清水建設株式会社 入社
有機廃棄物の処理技術の開発
20年 底質汚染の浄化技術の開発
24年 重金属汚染土の処理技術の開発
26年 博士号(農学)の取得

大学院の修士課程修了後は、現在の会社へ入社し、汚れた水や土壌の対策技術の開発などを中心に地盤環境に関する業務に携わっています。

2. 技術の最後の砦に

会社では、主に重金属汚染土の対策技術の開発を行っています。現在、大型インフラ工事で大量に発生する掘削残土から、自然由来重金属が溶出することが懸念されており、大きな課題となっています。そこで、実際に処理できるか、コスト的に可能か、技術的な信頼性を確保できるか等、一つずつ検討しながら、最終的には実証実験を経て課題の解決に取り組んでいます。(写真-1)。

また、建設会社での技術研究所の役割として、1) 現場支援、2) 基盤/先端分野の研究開発、3) 社外専門家との人脈形成に取り組んでいます。

1) 現場支援では、現場で何かトラブルがあった時に、化学分析等による環境評価や処理提案などを行えるようにしています。また、さまざまな汚い物質について相談があるため、幅広い知識の習得に心がけています。

2) 基盤/先端分野の研究開発では、10年後に必要な技術の確立を目指し、将来その技術で社会に貢献する夢を持って取り組んでいます。

3) 社外専門家との人脈形成では、少し自分の専門外の分野でも迅速に対応できるように社外ネットワークを広げ、常に最新情報を共有できるようにしています。

以上のように、技術研究所が会社における技術の最後の砦になれるように努めています。



写真-1 実証実験の様子

3. 子育て環境とワークライフバランス

家族は妻と子ども3人で、私を含めて計5名で暮らしています。勤務地は東京都江東区ですが、私自身が自然の多い場所で育ったように、子どもも同じ様な環境で育てたいとの思いで、現在は通勤に片道1時間30分以上かかる郊外に住んでいます。分かっていたことですが、少し住んでみると、子どものために子育て環境を優先したのに、通勤時間が長く子どもたちと過ごす時間が短くなるという矛盾に悩んでいます。しかしながら、会社から30分の場所に住んでいたころは、休日に会社に出て仕事をすることがありましたが、郊外に住むようになった現在は、平日は仕事、休日は家庭と割り切れるようになり、メリハリのあるワークライフバランスがとれるようになったように思います。自分で意識的にバランスを取ることが重要ですが、物理的に環境を分けることも有効だと実感しています。

平日は基本的に子どもたちが起床する前に家を出るため、家族とのコミュニケーションは、私が夕食を取りながら子どもたちが寝る前の時間を利用して行っているのが現状です(図-1左)。また、仕事が忙しくて帰宅が遅くなる時は、家族の寝顔を見るだけの日もしばしばあります。したがって、休日はなるべく子どもたちと一緒に過ごすことを心がけ、サイクリング、キャンプ、登山などへ、みんなで出かけるようにしています(図-1右、写真-2)。

4. 価値観を共有し新たな価値を創出する

社会のグローバル化が進みさまざまな文化や人が交流する機会が多くなったため、価値観やニーズが多様化しています。そこで、組織等の優位性を創り上げるためには、さまざまな価値観を受け入れ、その価値観を活かすこと(ダイバーシティ)の必要性がさまざまなところで取り上げられています。少し話がそれますが、技術開発においても同様な傾向にあると思います。これまでは技術を追求し専門分野が細分化(確立)してきたのに対し、近年は困難な問題を解決するために、技術の異分野融合が求められています。社会においても、これまでの価値観(文化)を形成してきた時代から、価値観を融合する時代になってきているのだと思います。

しかしながら、性別、年齢、国籍、宗教などさまざまな価値観はこれまでに長い時間をかけて築き上げられており、すぐに1つに融合することは非常に難しい問題です。近年、ダイバーシティの実現に向けてさまざまな制度作りが進められていますが、この問題を解決する最も重要なことは、個人のコミュニケーション能力を伸ばすことだと思います。なぜなら、コミュニケーション能力が上がれば、お互いの価値観を共有することができ、価値観を共有できれば、お互いを受け入れられるようになるからです。

これまでの価値観の構築と同じように、これからさま

平日

休日

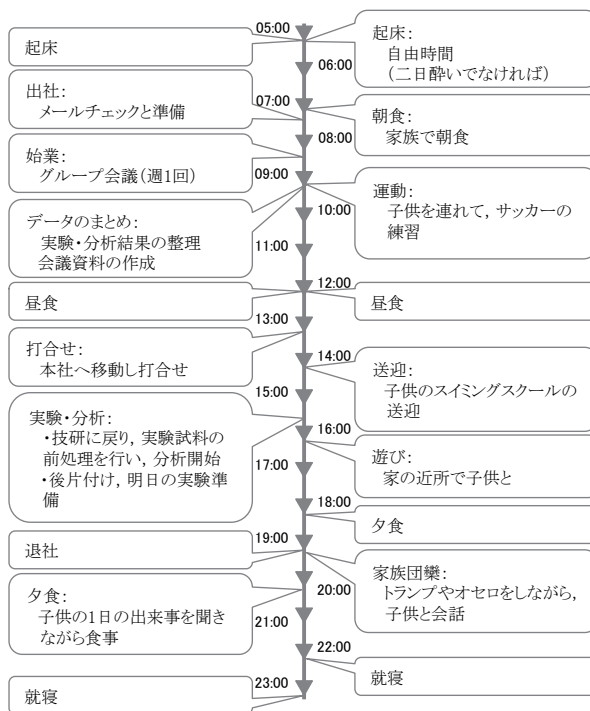


図-1 ある平日と休日の過ごし方



写真-2 家族と登山

さまざまな価値観を共有していくにも時間が必要だと思いますが、ダイバーシティを実現できれば新たな価値が創出できると思います。

5. まずはできることから

先日、家事や子育てのことで妻とケンカになりました。原因は、家事等の分担や子どもとの時間の使い方に対する考え方の違いが原因でした。私にとって一番身近で小さな社会である家族でも、上記のような有様で、日ごろからきちんとコミュニケーションが取れていればケンカも回避できたのかなと反省しています。時間はかかると思いますが、これからは、家族が話せる環境作りを心がけ、妻と子どもの考えを聞いた上で私の考えも話し、お互いの価値観を共有していこうと思います。そして、家族の新たな価値が創出できればと思います。

(原稿受理 2015.2.19)